

# 優勝ロボットを解剖しよう

## 第2回 ROBO-ONE「Metallic Fighter」

Dr.MicroMouse

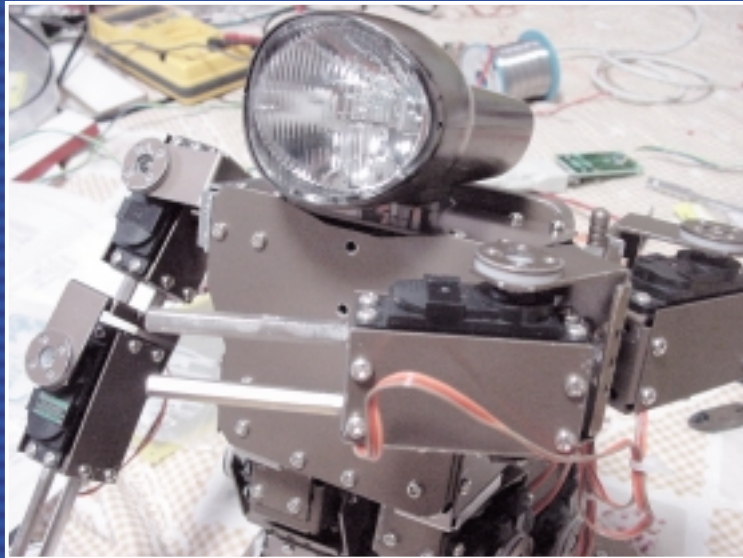
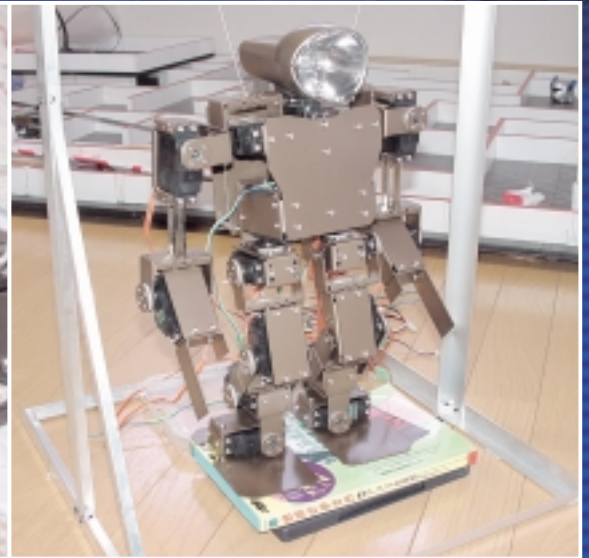


写真1 開発中のMetallic Fighter



### はじめに

2002年はヒューマノイドロボットの歴史にとって忘れられない年になるだろう。

2002年以前のヒューマノイド技術はホンダやソニーなどのメーカーの技術あるいは大学等の研究室の技術でしかなかった。我々は企業や大学の発表を見たり聞いたりしながら漠然と将来のロボットの行方を想像するしかなかった。

ところが2002年になって事態が一変した。アマチュアの世界でヒューマノイドロボット技術が現実のものとなったのである。それも突然である。2002年2月世界初の2足歩行ロボットの格闘技大会ROBO-ONEが開かれたのだ。おそらくこの大会がなければ、アマチュアの世界にこれほどまでに、ヒューマノイドロボット技術が広がることはなかったであろう。

2002年2月に行われた第1回大会ではほとんどのロボットが歩行をするのが精一杯というのが現実であったが、アマチュアが2足歩行型ロボットを作って大会に参加するという、それ以前では考えもつかなかったことが現実となった瞬間であった。

アマチュアの世界は火がつくと劇的な進化をする。

昔、オーディオの世界ではアマチュアが作

った一品ものであれば、メーカー製のものを凌ぐものがいくつもあった。いろいろな雑誌の紹介記事を見て、世の中にはすごい人がいるものだと、よく感激したものである。

しばらくすると、そういう猛者たちが企業に入り、日本の産業技術を支えるようになった。その結果、我々は彼らが作った高性能な製品を安価に手にいれられるようになり、生活水準は一気に上がった。しかし、それに伴いアマチュアが自作する意義がだんだんと薄れてしまった。自分で作るより、メーカー製を買ったほうが安価で、高性能でカッコいい物が手に入ることができるようになったためである。

アマチュアは物を作るより、コンピュータ上のバーチャルな世界を楽しむようになった。当然の流れだと思う。物作り冬の時代の到来である。

ところが、ROBO-ONEの登場により、このバランスが少し崩れてきた。ヒューマノイド型ロボットもアマチュア技術で作れることが、この大会で証明されたからである。しかも、第2回大会を見る限り、部分的な技術に着眼すれば現時点のメーカー製ロボットより優れたロボットが登場してきている。これをきっかけに再びアマチュアが物作りに目覚め、昔のオーディオ世界のようにメーカーの技術を凌ぐものが数多く出てくることを期待する。アマチュアからの技術の底上げが、戦後の日

本復興のように今の不況を打破するきっかけになるかもしれない。

アマチュアのロボット技術は発展途上であり、確立された技術はまだない。今ある技術はもしかすると、将来の笑い話になるかもしれない。しかし、途中の技術であってもそれを紹介することは、それはそれで意味があることだと思う。第2回ROBO-ONE優勝ロボットであるMetallic Fighterを解説することで、それを踏み台にしてさらなる高性能ロボットを作るきっかけになればと思いこの記事を書いている。Metallic Fighterも発展途上のロボットである。Metallic Fighterで使われている技術がベストではない。むしろ間違っ

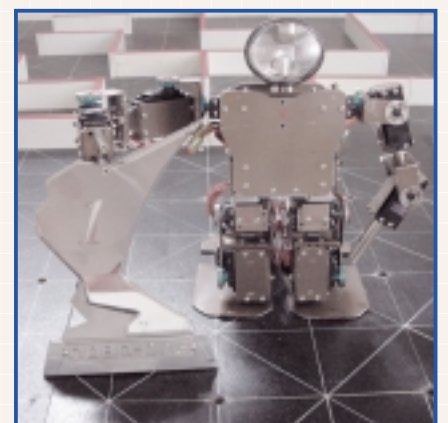


写真2 第2回優勝トロフィーとMetallic Fighter